

教理研究院

サンクチュアリ教会およびUCIを支持する人々の言説の誤り(3)

サンクチュアリ教会は、真のお父様のみ言と伝統が真のお母様によって覆されていると主張し、お母様のなさることをことごとく否定しています。また、UCI（いわゆる「郭グループ」）は、日本で集会を行って『統一教会の分裂』（日本語訳）という書籍を広めています。その書には誤訳やみ言改竄が散見し、お父様とお母様が分裂しているかのように論じています。彼らの主張は、真のお父様が真のお母様と共に立ててこられた勝利圏を否定するものであり、真のお母様を中心とする統一教会を損ねるものです。前回に引き続き、サンクチュアリ教会およびUCIを支持する人々の言説の誤りを指摘していきます。

なお、これらの内容を総合的に理解し把握するためには、「真のお母様宣言」の誤りを指摘していきま。なお、これらの内容を総合的に理解し把握するためには、「真のお母様宣言」の掲載文や映像をごらんください。布文サイト (<http://trueparents.jp/>) の掲載文や映像をごらんください。

教理研究院

注、真のお父様のみ言は「青い字」で、UCI側の主張は「茶色の字」「茶色の囲み」で区別しています。

三、UCIを支持する人物の「アベル女性UN創設大会のみ言」  
—教理研究院の『分派による御言葉改竄の問題（一）』に対する反論(2)への応答

教理研究院は、UCI（いわゆる「郭グループ」）側を支持する人物が、「お父様は、聖和される五〇日ほど前に、お母様

が自分勝手にやって、真の母が不在であると語られた。『オモニを私が育ててきたよ。オモニはいません。文総裁の妻の位置もいません。自分勝手にやっている!! 自分勝手に。ん。』（アベル女性UN創設大会二〇二二年七月十六日）と述べて、真のお母様を批判していることに對し、このみ言は、お父様がお

母様を否定しておられるみ言ではないと応答しました。アベル女性UN創設大会のみ言を用いた「お母様批判」は、かつてサンクチュアリ教会を支持する人物も拡散しており、その反論文は『世界家庭』二〇一六年十月号に掲載しました。UCI側を支持するS氏も、真のお母様をおとしめようとアベル女性UN創設大会のみ言を「お母様批判」に悪用しています。

【誤り①】真のお母様について語っていないみ言を、「お母様に言及した」と述べる悪意

UCI側を支持するS氏は、アベル女性UN創設大会で、真のお父様が講演文の「前置きである」として語られた部分を、次のように真のお母様批判に利用します。

二〇二二年七月十六日、清心平和ワールドセンターで開催されたアベル女性UN創設大会は、

お父様の最後の大衆演説の場となった。……（略）…… 私はアベル女性UN創設大会のフル動画……をネットで探し出し、お父様のスピーチの部分は全て聞いてみた。そのなかで母（オモニ）がいないとはつきりと言及されていた部分だけを紹介する。黒は講演文をお父様が読み上げられた部分。青は原稿から目を離し、その場で語られたお父様のみ言である。特に母（オモニ）について言及される部分は赤で記した。文脈で推し量れない難解な文章なので、自信がないものは敢えて「」を入れ空欄にした。意識もせず、ほぼ直訳しながら誤訳がないよう出来る限り努めた。本格的に講演文を読まれる前に、お父様は二度「母（オモニ）がいない」と言及され、講演の最後の方でもう一度、その時は、はつきりと「文総裁の妻の位置もありません」と語られている。

……（略）……

（講演文を読まれている）A編の天地人真の父母定着実体み言宣布天宙大会も、B編はアベル女性連合創設大会の基調演説（講演文を読むのを中断）、アベル女性、母（オモニ）がいません。神様、父（アボジ）を知っているが父（アボジ）の母（オモニ）のいない父（アボジ）を自分の神様だと戦って奪われたり「戦うこの教団たちの（）と国の権威の喪失はだれが是正してくれるのか！あ？私の名前は龍明。（）姓もありません。龍明。十七歳二月にイエスが生まれておい！龍明お兄様。思いがけないイエスという者が、ハンサムなイエスが表れて……（略）……

てしまったら誰故に、アダムが責任を果たせなくて母（オモニ）失ってしまった。（2度うなずかれる）アベル女性UN創設大会基調演説よく聞いてみなさい。先生の一生のあの肉声は母（オモニ）自体が父（アボジ）を追い払ってしまったって天地を追い払って来て待てる事ができる教育を私が準備したために母（オモニ）を再創造して、いくら反対して、いくらしても母（オモニ）を満天下に神様の夜の神様、昼の神様一つになったら創造主の母（オモニ）の位置に立てて見せると鉄石のような天宙の谷……（略）…… S氏は、上述部分で「お父様は二度『母（オモニ）がいない』と言及され（た）」として真のお母様を批判します。この部分を正しく理解するためにS氏がディクテーションしていない真のお父様の講演文の「前提」となる説明を紹介した

うえで、S氏が取り上げたみ言について応答します。

【真のお父様の講演】（注、太字の部分は講演文、それ以外はアドリブで語られた部分）  
大会の前に、私の話を約三十分間、前提として話してから、結果としての話を始めます。

……（略）……  
今に至るまで、数多くの宗教がありますが、父なる神様を信じる宗教にはなりませんが、母のいない宗教を信じてきたという恥ずべき、恥ずかしさをこの時間に爆発させ、その歴史的な、あつてはならないその悲運の痕跡を取り消すために、ここに現れた……私の歩む道は、平和な道ではありませんでした。

……  
A編の天地人真の父母定着実体み言宣布天宙大会も、B編のアベル女性連合創設大会基調演説。アベル女性、女性。母がいません。父なる神様は知って

ますが、母のいない父を自分の神様だと言って争い、奪い合う闘いをするこの教団どもの愚かさど国の権威の喪失を、誰が是正してあげるのですか。私の名前は龍明でした。姓もありません。龍明が十七歳の二月にイエスが現れて、「やあ、龍明兄さん」と。いきなりイエスという者が、ハンサムなイエスが現れて、……（略）…… さあ、そのような意味において、話を始めましょう。B編がアベル女性UN創設大会です。アベル女性UN創設大会に現れる母がいません。母を失ったのは誰のせいですか。アダムが責任を果たせずに、母を失いました。アベル女性UN創設大会の基調演説、よく聞きなさい。先生の一生の重要性は、母自体が父を追い払い、天地を追い払い、逃げてきた家から訪ねてきて、待てることのできる教育を私が準備したので、母を再創造して、いくら反対したとしても、母を

満天下に、神様の……。夜の神様、昼の神様、一つになって、創造主の母の位置に立ててみせようという、鉄石のように固い……定州の谷間、……(略)……

以上が、真のお父様が講演文全体の「前提」として語られたみ言であり、かつS氏が取り上げた部分です。

この冒頭のみ言で、真のお父様は、今まで宗教が「母のいない神様」を信じてきたことに対し、それを是正しなければならぬと訴えられました。この「前提」を踏まえるなら、「母がいません」というみ言は神観の問題を指摘しておられることを知らなければなりません。以下は、S氏が「母(オモニ)がない」と言及されたみ言として取り上げた部分です。

「アベル女性、女性。母がいません。父なる神様は知っていますが、母のいない父を自分の神様だと言って争い、奪い合う

闘いをするこの教団どもの愚かさ」と国の権威の喪失を、誰が是正してあげるのですか」

真のお父様が語っておられる「母がいません」は、「文脈」から見ると明らかに神観の問題について語っておられます。その後、「母のいない父を自分の神様だと言って争い、奪い合う闘いをするこの教団どもの愚かさ」と語っておられることで分かるように、その意味を正しく理解するために補足を入れれば、「母(なる神様)がいません」ということになります。そのような意味で述べておられるみ言を、S氏は「お父様は二度『母(オモニ)がいない』と言及された」とし、いかにもお父様が真のお母様を否定しておられるかのように述べるのです。さらにS氏は、二度目に真のお父様が「母(オモニ)がいない」と言及されたとして次の部分を取り上げます。

「B編がアベル女性UN創設大会です。アベル女性UN創設大会に現れる母がいません。母を失ったのは誰のせいですか。アダムが責任を果たせずに、母を失いました」

しかし、これも真のお父様が、真のお母様を否定しておられるみ言ではありません。この「アベル女性UN創設大会」の講演文の冒頭で、お父様は聴衆に対し「私の妻である韓鶴子総裁と共に、心から歓迎いたします」と繰り返して述べられ、「韓鶴子総裁と共に」「私たち夫婦」「真の父母」という表現を繰り返して語っておられることを考察すれば、このみ言が「真の母の不在」について語っておられるものではないのは明白です。このみ言も、「文脈」を踏まえて理解すべきものです。

真のお父様は、「B編がアベル女性UN創設大会です。アベル女性UN創設大会に現れる母

歴史で「母なる神様」が現れてくることができなかつたと言われているのです。

それゆえ、「母なる神様」が現れてくることができなかつたという観点から、前述した内容と同じく、これを補足して述べると「アベル女性UN創設大会に現れる母(なる神様)がいません」という趣旨で述べておられるものです。だからこそ、真のお父様は「母を再創造して、いくら反対したとしても、母を満天下に、神様の……。夜の神様、昼の神様、一つになって、創造主の母の位置に立ててみせよう」と鉄石のように固い意志をもって今まで歩んできたと言っておられるのです。

【誤り②】真のお父様が、真のお母様に対し「母(オモニ)を私が育ててきました。母(オモニ)いません。文総裁の妻の位置もありません。自分勝手だ!

自分勝手」と批判したと述べる悪意

S氏はアベル女性UN創設大会で、真のお父様が、真のお母様に対し「母(オモニ)を私が育ててきました。母(オモニ)いません。文総裁の妻の位置もありません。自分勝手だ! 自分勝手」と批判したとして次のように主張します。

(講演文を読まれる)女性連合は創設当時から私と韓鶴子総裁が共同創始者として活動し世界の各大陸と国々の組織化活動の基盤をつくりながら、かつて世界一六〇カ国に派遣された一六〇〇名の日本の女性連合のボランティア会員を始めたした全世界の会員を中心に平和運動を展開してきました。私達夫婦が二十年前の本連合創設時、闡明したメッセージ、メッセージのへ)にしたがって勝利した世界的な女性代表、真のお母様に侍り、(講演文を読むのを中断

され)母(オモニ)を私が育ててきました。母(オモニ)いません。文総裁の妻の位置もありません。自分勝手だ! 自分勝手。(また講演文を読み始める)世界女性代表、真のお母様に侍り真なる母の像、真なる妻の像を成立して真の愛の運動を理想的な家庭を結実させなければならず……(略)……

―引用終了  
母(オモニ)がいないと三度も言及された。特に三回目には「母(オモニ)を私が育ててきました。母(オモニ)いません。文総裁の妻の位置もありません。自分勝手だ! 自分勝手」と語られている。このオモニはお母様ではなく、聴衆だともいっているのであるか。講演文の内容はお母様を証す内容となっているが、正にその講演文の間で、お父様は「文総裁の妻の位置がない」と講演文の内容とは違うことを語られていたのである。

がいません。母を失ったのは誰のせいですか。アダムが責任を果たせずに、母を失いました」に続く部分で、「先生の一生の重要性は、母自身が父を追い払い、天地を追い払い、逃げてきた家から訪ねてきて、侍ることのできる教育を私が準備したので、母を再創造して、いくら反対したとしても、母を満天下に、神様の……。夜の神様、昼の神様、一つになって、創造主の母の位置に立ててみせよう」と述べておられ、「文脈」から見れば、これも神観の問題と密接に関連して語っておられるのが分かります。

真のお父様は、「母がいません」と語られた直後、「母を失ったのは誰のせいですか」と述べ、アダムに言及して「母を失いました」と述べておられます。ここで言う「母」は、文脈から見るとエバを指します。本来、神様の実体となるべきアダムとエバが墮落したため、今日までの

S氏は以上のように述べ、真のお母様をおとしめようとしています。S氏が取りあげた部分を忠実にディクテーションし翻訳すれば以下ようになります。(注、太字は講演文、それ以外はアドリブの部分)

女性連合は、創設当時から私と韓鶴子総裁が共同創始者として活動し、世界の各大陸と国々の組織および活動基盤を築き上げ、早くから世界一六〇カ国に派遣された日本女性連合のボランティア会員千六百人をはじめとする全世界の会員を中心として、平和運動を展開してきました。私たち夫婦が二十年前、女性連合の創設時に明らかにしたメッセージの精神に従い、勝利した世界的な女性代表である真のお母様(チャムオモニム)に侍り、お母様(オモニム)を私が育ててきました。母(オモニ)がいません。文総裁の妻の位置もありません。自分勝手、自



分かつてです。世界的な女性代表である真のお母様に侍り、真なる母の像、真なる妻の像を確立し、真の愛の運動によって理想的な家庭を結実させなければならず……(略)……

まず、着目すべき部分が「勝利した世界的な女性代表である真のお母様に侍り」という部分です。真のお父様は、もともと講演文で「勝利した世界的な女性代表である真の母に侍り」と「真の母(チャムオモニ)」となっていたにもかかわらず、それを、あえて「勝利した世界的な女性代表である真のお母様(チャムオモニ)に侍り」と言い換えて語っておられます。この「真のお母様」という部分は、韓鶴子女史を明確に意識された表現であり、その韓鶴子女史を「勝利した世界的な女性代表」と紹介しておられるのです。つまり、真のお父様は、私たちにに対し、そのような「勝利した世界的な女性代表である真のお母様に侍り」という部分で、真のお父様は、もともと講演文で「勝利した世界的な女性代表である真の母に侍り」と「真の母(チャムオモニ)」となっていたにもかかわらず、それを、あえて「勝利した世界的な女性代表である真のお母様(チャムオモニ)に侍り」と言い換えて語っておられます。

た世界的な女性代表である「韓鶴子女史に「侍り」なさい」と命じておられるのです。

続いて、注目すべき部分が「固有名詞」と「一般名詞」の使い分けです。真のお父様は、それに続くアドリブ部分である最初の「お母様」という言葉を、固有名詞で「お母様(オモニ)」と語っておられます。したがって、そのような「勝利した世界的な女性代表である真のお母様(韓鶴子女史)」を「私(真のお父様)が育ててきました」と語っておられます。これは、真のお父様が、勝利された真のお母様を誇りに思っておられ、そういう人類の真のお母様を育ててこられたと自負しておられる表現と言えます。ところが、その部分に続く「母がいません」は、それまでと違って「一般名詞」で「母(オモニ)」と語っておられます。これは、今までの歴史において勝利した母がいなかった(しかし

し、韓鶴子女史が初めて勝利した母として立った)ということであり、韓鶴子女史を指して語っておられるではありません。S氏は、そのような明白な違いがあることを無視し、いずれの言葉も「オモニ」とカタカナで記述することで、いかにも韓鶴子女史について語っているかのように思わせています。

また、講演文全体の趣旨から見ると、真のお父様が冒頭の「前提部分」で「今に至るまで、数多くの宗教がありますが、父なる神様を信じる宗教にはありませんが、母のいない宗教を信じてきたという恥ずべき、恥ずかしさをこの時間に爆発させ」と語っておられることから、今に至るまで「母なる神様」がいなかったことに思いをはせ、母がいません」と、その思いを爆発させておられるのです。もし、この部分の「母がいま

利した世界的な女性代表である真のお母様に侍り」なさいと命じておられるにもかかわらず、その待るべき「母」がいらないという話になってしまったため、話が矛盾したものとなります。これでは、存在しない「母」に対して「侍りなさい」と命じる、全く意味不明な内容となります。それに続く、「文総裁の妻の位置もありません」は、そういう勝利した「真のお母様」がもともとおられるわけではないという意味で語っておられます。つまり、独り娘(独生女)としてお生まれになった韓鶴子女史にも、「文総裁の妻」「真の母」として勝利するまでの過程があり、果たすべき責任分担があったわけで、そういう勝利した「文総裁の妻の位置も(もともとあるのでは)ありません」という意味です。

また、それと同時に、今までの宗教において、父なる神様は信奉してきたが、その妻の位置を繰り返して語っておられることから考察すると、真のお父様は、勝利された「真の母」である韓鶴子女史と共に、勝利された「真の父母」としてこの講演をしておられるのは疑いがないことです。

置である「母なる神様」を信奉してこなかったことに対し、それを指摘して語っておられるとも言えるみ言です。そして、「自分かつて、自分かつてです」と叱責しておられるのは、女性一般に対し、さらには、父のいない神様を信奉してきた人類に対して「自分かつて、自分かつてです」と語っておられるのです。

事実、真のお父様が語っておられる映像を見ると、このときに会場の聴衆に向かって語気を強くして語っておられることから、そのことが分かります。だからこそ、お父様は、聴衆に向かって再度、勝利された「世界的な女性代表である真のお母様に侍り」と繰り返し語られたうえで、その真のお母様に侍ることによって、「真なる母の像、真なる妻の像を確立し、真の愛の運動によって理想的な家庭を結実させなければ」ならないと命じておられるのです。

したがって、真のお父様が、真のお母様に対し「母(オモニ)を私が育ててきました。母(オモニ)いません。文総裁の妻の位置もありません。自分勝手だ！自分勝手」と述べているとするS氏の批判は、講演文全体の流れと、お父様の真意を無視し、それを曲解した、とんでもない批判です。お父様ご自身をおとしめられていると言っても過言ではありません。

事実、その映像で、その前後の部分を確認してみると、真のお父様が「自分かつて、自分かつてです」と厳しい口調で叱責しておられるとき、真のお母様はお父様のすぐ近くに座っておられるのです。【写真参照】にもかかわらず、真のお父様が真のお母様を見るそぶりは一切なく、会場を見渡すように聴衆に向かって「自分かつて、自分かつてです」と語っておられます。これを見ても、この言葉が、お母様に対し語っておられ

るものでないのは明らかです。また、講演文全体を通して見ると、この叱責の言葉は真のお母様に対してではないことが、より明白になります。なぜなら、お母様を叱責される意味に受け取れる表現が講演文に全くないからです。

むしろ前述したように、講演文の冒頭で、真のお父様は聴衆に対し「私の妻である韓鶴子総裁と共に、心から歓迎いたします」と繰り返し語っておられ、また、「韓鶴子総裁と共に」、「私たち夫婦」、「真の父母」という



表現を繰り返し語っておられることから考察すると、真のお父様は、勝利された「真の母」である韓鶴子女史と共に、勝利された「真の父母」としてこの講演をしておられるのは疑いがないことです。

ところが、金鍾奭著『統一教会の分裂』(日本語訳)は、「アベル女性UN創設大会で、創始者(注、お父様)が基調講演をした。基調講演文を読んでいる途中、突然、創始者は韓鶴子に向かって怒りを露わにしながら、お母さんを私が育ててきた。お母さんがいません。文総裁の妻の位置もありません。自分勝手にしています。自分勝手に！と韓鶴子に向かって、立腹され原稿を読み上げた」(二五二ページ)と事実と反することを平然と述べています。 私たちは、講演全体の趣旨や文脈を無視したUCI側を支持する人物たちの悪意に満ちた批判に惑わされてはなりません。